

特集

新型インフルエンザ の予防と対策

メキシコで発生したインフルエンザA(H1N1型)は、人から人に感染する新たなタイプに変異し、新型インフルエンザの発生が宣言されました。皆さんも新型インフルエンザについて正しい知識を持ち、予防の心構えをしましょう。



短期間で
感染が起こる
世界的大流行の危険

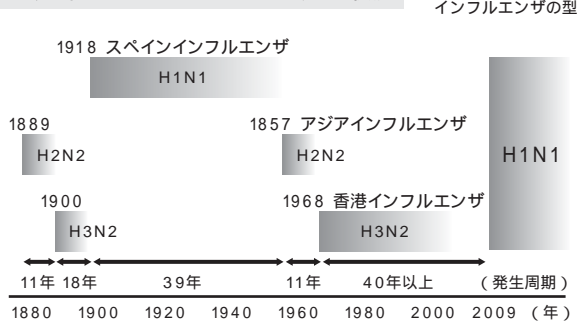
新型インフルエンザとは？

人には感染しにくかった動物のインフルエンザウイルスの遺伝子が変わり、人から人へ容易に感染する力を獲得し、人にとって新たなウイルスとなつて引き起されたインフルエンザを「新型インフルエンザ」といいます。

新型インフルエンザウイルスに対して、人は免疫を持っていないため、過去の例からも人への感染拡大が急速に進み、世界的な大流行(パンデミック)が予測されています。

じゅうぶんな理解と
早目の準備を

過去の新型インフルエンザの発生状況



過去にも新しい種類のインフルエンザが流行し、世界で多くの人が死亡しました。これらは、鳥インフルエンザが変化したといわれています。九十年前のスペインかぜでは、世界中で二五%〜三〇%の人が感染し、日本では三十九万人が死亡したと記録されています。当時に比べて人口の増加や都市への人口集中が進み、交通機関も発達している現代、どこで発生しても世

新型インフルエンザの発生段階

*WHOの資料を基に作成

段階	新型インフルエンザの発生状況
フェーズ1	ヒトに感染する可能性のある新型ウィルスが出現
フェーズ2	ヒトに感染する危険性の増大
フェーズ3	新型インフルエンザがヒトに感染
フェーズ4	限定された範囲でヒトからヒトへ感染
フェーズ5	現在 ヒトからヒトへの感染の増大
フェーズ6	世界的な大流行(パンデミック)

ヒトへの感染が拡大

界中に急激に広がります。WHO(世界保健機構)では、新型インフルエンザの危機管理を六段階に分けています。現在発表されている危機管理レベルは「フェーズ5(五月二十七日現在)」。これは、世界規模でみると、人から人への感染が増大している段階になっています。



新型インフルエンザとパンデミック

基本的にすべての人は、新型インフルエンザに対して、抵抗力（免疫）を持っていません。このため、新型インフルエンザが発生すると、急速に広がります。

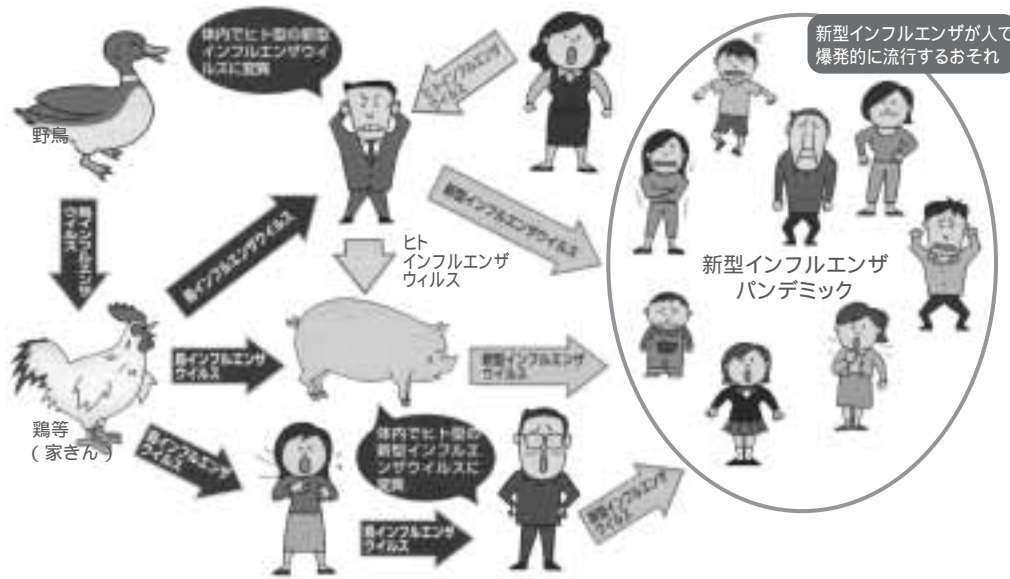
さらに、人口増加や都市への人口集中、飛行機のような短時間で多くの人が移動できる交通機関の発達などによって、新型インフルエンザは短期間のうちに、ひとつの地域だけでなく、地球全体に広がると考えられています。この大流行を「パンデミック」といいます。

パンデミックになった場合、大きな社会影響や混乱が考えられます。例えば、医療機関には患者があふれますが、医療関係者が感染することもあります。ほかにも、労働力が失われ、物流停滞による医療品や食料品の不足、電気・水道・ガスの供給やゴ



ミ処理への影響をはじめ、情報の氾濫による混乱などが予測されます。また、世界的に流行することから近隣地域から

新型インフルエンザの流行まで



らの支援も期待できません。国ではワクチンの研究や新型インフルエンザ対策行動計画にもとづいて対応をすすめています。私たちも日ごろの健康管理などで、影響を最小限にすることができま

初期症状は三十八度以上の高熱が突然出て、せきなどの気道症状や全身倦怠など季節性インフルエンザとほぼ同様と思われま

新型インフルエンザと季節性インフルエンザの比較

季節性インフルエンザ

晩秋から早春に流行

高齢者が多い

幼・小児や高齢者、免疫の低下している人

38 以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、のどの痛み、鼻水など、ほかにも気管支炎、肺炎、中耳炎、熱性けいれんを併発

新型インフルエンザ

時期

死亡者の年齢層

感染者の特徴

主な症状

流行するウイルスにより特徴が異なるため、現在では予測できません。

(予測)

38 以上の発熱、鼻血、筋肉痛、多臓器不全、肺炎、下痢、腹痛、心筋炎、呼吸困難など

現在、流行している H1N1 型は、弱毒性といっており、重症の程度と時期、好発年齢などの情報も必要となります。

致死率は低いようです。しかし、人から人への感染過程で強毒性へ突然変異する可能性もあり注意が必要です。症状は季節性インフルエンザと同様で、発熱や咳、のどの痛み、節々の痛み、頭痛、悪寒、といった内容となります。

新型インフルエンザの症状は？

ただし、流行するウイルスにより特徴が異なるため、現在では予測ができません。